銅文化発信

おかげ横丁

歴史の町・伊勢に異彩を放つ―地域全体を蘇えらせた

お伊勢さん―。江戸時代、伊勢神宮にお参りする人々が親しみを込めて神宮をこう呼んだ。庶民の間で爆発的な流行をみせた伊勢詣。なかでも文政十三年に起きたブームは最高潮に達し、当時の日本の総人口の五分の一に当たる五〇〇万人もの人々が伊勢に押し寄せたのである。お伊勢さんまでの高額な旅費を皆で貯金し、代表者を参宮させる「伊勢講」というシステムまで生まれた。門前町である「おはらい町通り」も隆盛をきわめ、お伊勢さんには欠かせない存在となっていったのである。時代が移り、昭和も末、六十年代には交通情況などの変化もあり、おはらい町通りを訪れる参詣客は年間一千万人台へと落ち込んだ。この惨状を救ったのがひとつのユニークなアイデアだった。

銅釜で伊勢の客人をもてなす！

暑い夏の昼下がり、近鉄線宇治山田駅へ降り立つ。天井の高い駅舎は大正を思わせ、飾り気のない建物がかえって歴史を感じさせる。

駅から車に乗り、伊勢神宮へ向かう。神宮に近づくにつれ、沿道に角柱の石灯ろうが目につくようになる。わが国の多くの企業の寄進によるものだという。なるほど、これがお伊勢さんか！十分ほどで「おはらい町通り」に着く。週中の日中なのに若い観光客が多い。お年寄ばかりだと思っていたら意外だ。門前町らしく、時代を想起させるたたずまいのお店が軒を並べる。通りのほぼ中程にめざす「赤福」があった。重厚な建物に入ってまず目に飛び込んでくるのが三連の銅釜である。お茶を立てるお湯を沸かす釜だ。朝四時、この釜にお女将が火を入れ、店の一日が始まる。伝統の中で培われた長年の習わしだ。名菓赤福餅は、今では年間一億個を製造しているという。三重県を代表する、いやわが国を代表するお菓子といってもいいだろう。店内はいつでも赤福餅をほおばるお客さんであふれかえっている。

「おはらい町通り」は神宮内宮の鳥居から一〇〇メートル足らずの所から始まる街道沿いの商店街であり、お客を呼ぶには申し分のない立地といえた。ところが通りと並行するように国道が路線変更されると、客足はいっぺんに遠のいた。内宮入口の宇治橋まで広い整備された道路が通り、大型駐車場が完備したことにより、観光バスやマイカーが内宮前まで乗りつけることになった。参

あんこたっぷりの赤福餅

赤福店内に存在感を見せる3連の銅製釜

おはらい町通りの商店の看板には多くの銅が使われている

賑わいをとり戻した「おはらい町通り」

威風を放つ「赤福本店」（右）赤福本店の銅製建材（上）

宇治橋から五十鈴川を望む

神宮内建造物の柱にはすべて保護用の銅板が巻かれている

詣が終わると間近かの「おはらい町通り」の方へは流れず、そのまま乗ってきた車で鳥羽や志摩へ向かってしまう。状況を変えられないまま昭和五十年代には多くの店がガレージや倉庫に化けてしまうこととなった。

そんな時、なんとか町の再生を、と有志が立ち上がった。その中心となったのが「赤福」である。

「おかげさま」の気持ちが何より大切

株式会社赤福長老　平居　肇氏は当時を振り返り言われる。

―町興しで有志が立ち上がる以前から、当社ではこのあたり一帯の再生について考えていました。あるとき、この地に思い入れの深い建築家の清家　清先生に町並み診断をお願いしたところ、今の「おはらい町通り」には「伊勢らしさがまったくない」と町並み改善の必要性を強調されました。そのなかでも一番美観を損ねているのが赤福の鉄筋四階建のビルだと言われたんです。それなら本社ビルを壊してしまおう。それだけではつまらない。その跡地の周辺にお客さまをもっと引き付けるような目玉のゾーンを作ってはどうかと思ったんです。

江戸時代の伊勢では、この地で満足してもらえるよう、お客さまがたとえお金を持っていなくても食事や風呂を提供するなどのサービスを行っていました。それが当時の伊勢詣ブームを支えていたんです―

そこで生まれたのが「おかげ横丁」構想である。いわゆるテーマパークとは異なり、入場料のいらない開放的な町づくり、江戸から明治にかけての伊勢路の特徴的な町並の移築・再現。老舗の味・名産品・歴史・風俗・人情までもが体感できる、をコンセプトに町づくりが進められた。昔の伊勢詣を体感できる「おかげ座」をはじめ、伊勢を再現する多彩な施設がつぎつぎに生まれていった。平成五年、「おかげ横丁」は完成。内宮への参詣者は横ばいだが、「おかげ横丁」の噂は口コミで伝わることとなり、昭和末期に二〇万人と落ち込んでいた来丁者が、平成十五年にはなんと三二〇万人とふくれ上がったのである。お伊勢さんの「おかげ」という町の人々の気持ちがお客に強く伝わったのである。

赤福・平居　肇長老

「おはらい町通り」をそぞろ歩くと銅があちこちに使われ、時代を何気に主張している。お店の看板、屋根、樋、水切り、案内板、建築金物などに使われている銅が何気に…。

最も古い金属といわれる銅が、新しい町づくりに息吹きを与えている。伊勢という歴史ある町から世界に日本の銅文化を発信しているのである。

休憩所には雨が流れると音の出る銅製樋が…
（タニタハウジング（株）提供）

おかげ座

おかげ横丁